

表1 “最も必要なものは何ですか？”に対する自由記述法による回答により把握した家族ニーズ

ニーズ分類(FNS原版の因子別にニーズ項目を列挙)	母 最も必要であると回答した人数 (割合)	父 最も必要であると回答した人数 (割合)
情報		
1 子どもはどのように成長し発達するのか(障害や病気を考慮した)	5 (0.7%)	5 (1.1%)
2 自分の子どもとどのように遊んだり話したりすればよいのか	6 (0.8%)	1 (0.2%)
3 自分の子どもをどのように教育するのか	16 (2.2%)	18 (4.0%)
4 自分の子どもの行動にどのように対処するのか	10 (1.4%)	0 (0.0%)
5 自分の子どもが将来おこりうる状況や障害についての情報	27 (3.8%)	20 (4.4%)
6 自分の子どもが現在利用可能なサービスについての情報	8 (1.1%)	8 (1.8%)
7 今後、自分の子どもが利用可能なサービスについての情報	2 (0.3%)	0 (0.0%)
8 上記のどこにも当てはまらない情報	20 (2.8%)	14 (3.1%)
ファミリー & ソーシャルサポート		
9 心配なことについて家族の誰かと話すこと	37 (5.1%)	22 (4.9%)
10 打ち明けて話せる友人を持つこと	7 (1.0%)	3 (0.7%)
11 自分自身に使える時間を増やすこと	180 (25.0%)	74 (16.4%)
12 子どもが抱えているあらゆる状態を配偶者が受け入れられるように支援すること	19 (2.6%)	5 (1.1%)
13 家族で問題を話しあい、解決法を導くのを支援すること	11 (1.5%)	4 (0.9%)
14 困難なときに、家族が互いに助けるのを支援すること	49 (6.8%)	9 (2.0%)
15 家事や子どもの世話、その他の家族の仕事を誰がやるか決めること	2 (0.3%)	1 (0.2%)
16 家族での余暇活動を決めて実行すること	23 (3.2%)	5 (1.1%)
17 家事の手伝い、家事をしているパートナーの援助をすること	25 (3.5%)	13 (2.9%)
18 家族団らん、家族のつながり、家族の和など(やや抽象的表現)	14 (1.9%)	4 (0.9%)
19 自分の健康(心の健康も含める)	67 (9.3%)	47 (10.4%)
20 家族(夫、障害児以外の子ども、など)の健康(心の健康も含める)	27 (3.8%)	9 (2.0%)
21 家族の存在自体、自分と家族(夫、子どもなど)との時間	75 (10.4%)	54 (11.9%)
22 思いやり、優しさ、心のゆとり、努力、忍耐力、明るさ、笑い、気遣いなど、自分や家族の精神性に関すること	101 (14.0%)	57 (12.6%)
23 社会の温かさ、受入、理解など、周りの精神性に関すること(自分がどうにもできない周りのこと)	56 (7.8%)	36 (8.0%)
24 障害児の子どもへ声かけする、耳を傾ける、会話をすること	22 (3.1%)	14 (3.1%)
25 上記のどこにも当てはまらないファミリー & ソーシャルサポート	7 (1.0%)	2 (0.4%)
経済面に関するニーズ		
26 食費、住宅費、医療費、衣類費、交通費等の支出	148 (20.6%)	116 (25.7%)
27 子どもが必要としている特別な器具の入手	22 (3.1%)	8 (1.8%)
28 子どもが必要とする治療費、療育施設の利用、児童デイサービス、他のサービスへの支払い	7 (1.0%)	2 (0.4%)
29 職に就くための相談や支援	12 (1.7%)	1 (0.2%)
30 一時預かりやショートステイの費用	0 (0.0%)	0 (0.0%)
31 子どもに必要なおもちゃ代の支払い	2 (0.3%)	1 (0.2%)
32 上記のどこにも当てはまらない経済面(お金)	8 (1.1%)	12 (2.7%)
他者への説明		
33 子どもの状態を私の両親や配偶者の両親に説明すること	6 (0.8%)	1 (0.2%)
34 子どもの状態を子どもの兄弟姉妹に説明すること	2 (0.3%)	1 (0.2%)
35 子どもについて聞いてくる友人や隣人、見知らぬ人にどう対応するか知ること	4 (0.6%)	4 (0.9%)
36 子どもの状態を他の子どもに説明すること	0 (0.0%)	0 (0.0%)
37 自分と同じような子どもがいる他の家族について書かれた本などを見つけること	1 (0.1%)	1 (0.2%)
38 上記のどこにも当てはまらない他者への説明	0 (0.0%)	0 (0.0%)
育児支援		
39 自分の子どもを実際に、喜んでみてくれるような一時あずかりやショートステイを見つけること	69 (9.6%)	15 (3.3%)
40 自分の子どもにあう療育施設や幼稚園(保育園)を見つけること	26 (3.6%)	19 (4.2%)
41 社会活動や宗教活動の間、同じ場所で子どもを適切にケアしてくれるようにすること	0 (0.0%)	0 (0.0%)
42 日常生活(食事、入力、移動)の助け、介助ヘルパー	59 (8.2%)	18 (4.0%)
43 学童保育のような放課後時間、通園後の時間(一時あずかりやショートステイでなく、継続的なもので39とは別)の育児支援	37 (5.1%)	5 (1.1%)
44 障害児でない兄弟姉妹の育児支援	12 (1.7%)	2 (0.4%)
45 上記のどこにも当てはまらない育児支援	37 (5.1%)	20 (4.4%)
専門家によるサポート		
46 子どもの担当教師や主治医、担当のリハビリの先生と話す時間をもっととること	9 (1.3%)	8 (1.8%)
47 カウンセラー(臨床心理士、ソーシャルワーカー、精神科医)とあうこと	13 (1.8%)	3 (0.7%)
48 宗教関係者と会うこと	0 (0.0%)	0 (0.0%)
49 子どものことを理解してくれる(障害・発達・支援の仕方を理解している)保育園、小学校、中学校などの学校の先生にあうこと	6 (0.8%)	10 (2.2%)
50 成長や発達について相談できる人(機関)を見つけること	38 (5.3%)	9 (2.0%)
51 就学後や通園後も、継続的なリハビリ(PT、OT、ST)を受けること	15 (2.1%)	5 (1.1%)
52 上記のどこにも当てはまらない専門家によるサポート	11 (1.5%)	3 (0.7%)
地域サービス		
53 自分と同じような子どもを抱えた他の親と会い、話をすること	4 (0.6%)	2 (0.4%)
54 自分の事や子どものニーズを理解してくれる医師を見つけること	14 (1.9%)	10 (2.2%)
55 子どもを診療してくれる歯科医を見つけること	2 (0.3%)	2 (0.4%)
56 安心して遊ばせることができる場所を見つけること	25 (3.5%)	8 (1.8%)
57 制度、支援、国・行政の対策などを改善してもらうこと	49 (6.8%)	28 (6.2%)
58 子どもへの願い(子どもの成長、健康、体調、自立など)	24 (3.3%)	11 (2.4%)
59 医療の進歩、新薬の開発	4 (0.6%)	7 (1.5%)
60 上記のどこにも当てはまらない地域サービス	6 (0.8%)	1 (0.2%)

障害児家族ニーズの種類別アセスメント指標の開発研究

～FNS-J活用指針：FNS-J試行実施より～

植田紀美子 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療センター
研究協力者 小澤 折子 梶川 邦子 木村 和代 児玉 和夫 柴田真理子
下田 睦美 高橋真保子 富和 清隆 成澤佐知子 中谷小百合
西上 優子 西脇美佐子 北條 妙子 藤江のどか 松下 彰宏
米本 直裕

研究要旨

FNS-J を試行し、FNS-J を活用可能な対象者や活用場所、活用方法を確認し、活用事例とともにとりまとめることを目的とした。FNS-J 試行時には、以下に留意した。

- ・ FNS-J は、スコア化して診断をするツールではなく、相談や面接などの場面で、支援を強化するために活用する。
- ・ 相談や面接をすすめていくための“discussion guide”で、家族が支援を必要としているものが何であるかを見極めるために活用する。
- ・ FNS-J すべての項目を使用するのではなく、相談や面接の中で、必要と思われる項目を使用する（相談者によっては使用しない場合もある）。
- ・ 支援者が自分の支援スタイルの中で、支援強化のため自分にあった方法で使用する。

児童福祉施設、障害児等療育支援実施機関、保健所、医療機関において医師、保健師、看護師、保育士、心理士、ケースワーカー、精神保健福祉士により、46 ケース（1 歳～15 歳、軽度障害～重度障害）を試行した。初回施設利用児のアセスメント、継続支援中の支援内容の見直し、他施設への子どもの紹介時のニーズ情報の共有、子どもや家族の生活の変化が合った際の支援の見直し、不定期の施設利用児に対するアセスメントなど、様々なタイミングで活用できた。また、相談前に FNS-J に記載してもらったり、相談途中で記載してもらったり、一緒に見ながらニーズを聞き出したりと様々な活用方法があった。家族自身のニーズの確認、支援者側にとってはこれまでの支援の見直しにも有益であった。試行した結果は事例集としてまとめた。

FNS-Jは、4因子34項目からなる障害児家族ニーズのアセスメント指標として、相談支援の場でよりニーズを引き出し、支援を強化するために活用できた。市町村での個別支援計画作成時や保健センター、保健所、児童相談所、療育施設、児童福祉施設等での相談業務にFNS-Jが活用され具体的な支援につなげられることを期待したい。

A. 研究目的

本研究の目的は、統計学的に信頼性・妥当性を確認した FNS-J を試行し、FNS-J を活用可能な対象者や活用場所、活用方

法を確認し、活用事例とともにとりまとめることである。

B. 研究方法

開発者の Bailey 博士に問い合わせ、また、文献より、米国における FNS の活用方法を確認した。

- ・ スコア化して診断をするツールではなく、相談や面接などの場面で、支援を強化するために活用する。
- ・ 相談や面接をすすめていくための“discussion guide”で、家族が支援を必要としているものが何であるかを見極めるために活用する。
- ・ すべての項目を使用するのではなく、相談や面接の中で、必要と思われる項目を使用する（相談者によっては使用しない場合もある）。
- ・ 支援者が自分の支援スタイルの中で、支援強化のため自分にあった方法で使用する。

FNS-J を試行実施する予定の研究協力者が集まり、FNS-J の相談現場での活用方法について、資料 1 を用いて確認した。

平成 23 年 10 月から平成 24 年 2 月の間、研究協力者所属機関（児童福祉施設、障害児等療育支援実施機関、保健所、医療機関）において、研究協力者が可能な範囲で試行できるケースを選定し、実際の相談支援現場で FNS-J を活用した。使用時には、資料 2 を用いて対象者に説明し、同意を得てから、資料 3 の FNS-J を用いて相談に応じた。

FNS-J を用いる際には、前述の活用方法に留意し、FNS-J の試行を目的にケースに関わるのではなく、通常の間わりの中で FNS-J を活用するように心がけてもらった。資料 4 を用いて、研究協力者からケースごとに FNS-J 活用状況について報告を受けた。

（倫理面の配慮、個人情報保護）

調査参加者に対しては、十分な説明を行い、同意を得て調査を行った。調査参加をもって同意とした。研究協力者が事例報告書に記載する段階で、個人が特定されないように留意してまとめたため、個人が特定される情報は含まれていない。なお、障害児家族ニーズの種類別アセスメント指標の開発研究のための調査の追加調査として、新たに研究代表者所属機関の倫理委員会の承認を受けた。

C. 研究結果

児童福祉施設、障害児等療育支援実施機関、保健所、医療機関において 46 ケースを試行した。相談対応者は、医師、保健師、看護師、保育士、心理士、ケースワーカー、精神保健福祉士である。すべての施設で実施可能であった。試行対象年齢は 1 歳～15 歳で障害との診断は受けていないが行動に問題の子どもから重度の知的及び身体障害がある子どもであった。子どもの背景や相談対応のポイントが異なった 30 ケースを資料 5 にまとめた。

初回施設利用児のアセスメント、継続支援中の支援内容の見直し、他施設への子どもの紹介時のニーズ情報の共有、子どもや家族の生活の変化が合った際の支援の見直し、不定期の施設利用児に対するアセスメントなど、様々なタイミングで活用できた。また、相談前に FNS-J に記載してもらったり、相談途中で記載してもらったり、一緒に見ながらニーズを聞き出したりと様々な活用方法があった。家族自身のニーズの確認、支援者側にとってはこれまでの支援の見直しにも有益であった。

D. 考察

様々な場面で、様々な職種により FNS-J

が活用可能であることが分かった。いずれの場合でも支援強化のためのツールとしての役割を担うことができたと考える。留意点(資料5の各ケースのアドバイス)も整理することができた。

市町村での個別支援計画作成時や保健センター、保健所、児童相談所、療育施設、児童福祉施設等での相談業務にFNS-Jが活用され具体的な支援につなげられることを期待したい。

E. 結論

ニーズは個々の家族に特有のものである。FNS-Jは、診断ツールでもなく、比較や評価のみに使用するものでもない。FNS-Jは、4因子34項目からなる障害児家族ニーズのアセスメント指標で、相談支援の場でよりニーズを引き出し、支援を強化するために必要なツールとして活用できた。

F. 研究発表

「障害児家族ニーズの種類別アセスメント指標の開発研究～FNS-J信頼性・妥当性結果～」F. 研究発表に記述

FNS-J の活用方策（論点整理）

(1) 相談場所に応じた活用

- ・ 療育施設
- ・ 市町村
- ・ 福祉事務所
- ・ 児童相談所
- ・ 保健所
- ・ 保健センター
- ・ 児童相談所
- ・ 医療機関
- ・ 学校
- ・ その他

(2) 対象者に応じた活用

- ・ 乳幼児期
- ・ 就学前期
- ・ 学齢期

(3) 個人の相談時期に応じた活用

- ・ 継続的に相談ができる場合
 - ✓ インテークで、
 - ✓ 継続相談で、
 - ✓ 支援の見直しで
 - ✓ その他
- ・ 1回だけの相談の場合

(4) 障害の種類や程度、疾病に応じた活用

参考：

FNS を開発した米国での使用状況。

- ・ FNS は、スコア化して診断をするツールではなく、相談や面接などの場面で、支援を強化するため活用する
- ・ 相談や面接をすすめていくための“discussion guide”で、家族が支援を必要としているものが何であるかを見極めるために活用する
- ・ FNS すべての項目を使用するのではなく、相談や面接の中で、必要と思われる項目を使用する（相談者によっては使用しない場合もある）
- ・ 支援者が自分の支援スタイルの中で、支援強化のため自分にあった方法で使用する

FNS-J（日本版 家族ニーズ質問票）への記入のお願い

家族ニーズ質問票（FNS）は、1990年頃、当時の米国ノースカロライナ大学教授 Bailey 博士らが、特に障がいをお持ちのお子さまのご家族のニーズを把握するために開発した質問票です。以後、療育や相談業務、臨床現場で使用されてきました。

我が国においては、このようなご家族のニーズを把握できる質問票はありません。

そこで、ニーズアセスメント指標開発研究班では、家族ニーズに応じた、より適切な支援ができるようになることを目指して、療育や相談業務等で活用可能な日本版家族ニーズ質問票（FNS-J）を開発しています。

現在、研究班のメンバーが、FNS-J の試用し、よりよい FNS-J の作成を目指していますので FNS-J への記入にご協力くださるようお願いいたします。開発研究に活用させていただく際には、個人は全く特定されずプライバシーは保護されています。また、記入いただくことで、この開発研究にご同意いただけるものと考えさせていただきます。

2011.10 厚生労働科学研究 ニーズアセスメント指標開発研究班
大阪府立母子保健総合医療センター 植田紀美子

記入日 年 月 日

お子さまのいる多くのご家庭では、情報や支援を必要とされています。ここにあげた項目は、多くのご家族が必要だと感じていらっしゃる事です。各項目にそって「相談したくない」「わからない」「相談したい」のあてはまるもの一つに○をつけてください。この項目以外に相談したいことがあれば、最後の部分に、記入してください。

項 目	相談 しなくて よい	わから ない	相談 したい
情報に関するニーズ			
1. 子どもはどのように成長し発達するのか			
2. 自分の子どもとどのように遊んだり話したりすればよいのか			
3. 自分の子どもをどのように教育するのか			
4. 自分の子どもの行動にどのように対処するのか			
5. 自分の子どもが将来おこりうる状況や障がいについての情報			
6. 自分の子どもが現在利用可能なサービスについての情報			
7. 今後、自分の子どもが利用可能なサービスについての情報			
8. 子どもに合う療育施設や幼稚園（保育園）を見つけること			
9. 子どもの担当教師や主治医、担当のリハビリの先生と話す時間をもっととること			
10. 自分のためにカウンセラー（臨床心理士、ソーシャルワーカー、精神科医）と会うこと			
11. 同じような子どもを抱えた親と会い、はなしをすること			
12. 自分や子どものニーズを理解してくれる医師を見つけること			
13. 子どもを診療してくれる歯科医を見つけること			
家族関係に関するニーズ			
1. 心配なことについて家族の誰かと話すこと			
2. 打ち明けて話せる友人を持つこと			
3. 自分に使える時間を増やすこと			
4. 子どもが抱えているあらゆる状態を、配偶者が受け入れられるようにすること			
5. 家族で問題を話し合い、解決法を導くこと			

項 目	相談 しなくて よい	わから ない	相談 したい
6. 困難なときに、家族が互いに助けあうこと			
7. 家事や子どもの世話、その他の家族の仕事を誰がやるか決めること			
8. 家族での余暇活動を決め実行すること			
経済面について			
1. 食費、住宅費、医療費、衣類費、交通費等の支出			
2. 子どもが必要としている特別な器具の入手			
3. 子どもが必要とする治療費、療育施設の利用、児童デイサービス、他のサービスへの支払い			
4. 自分が職に就くための相談や支援			
5. 一時あずかりやショートステイの費用			
6. 子どもに必要なおもちゃ代の支払い			
7. 子どもを実際に、喜んでみてくれるような一時あずかりやショートステイを見つけること			
8. 社会活動をする間、同じ場所で子どもを適切にケアしてくれるようにすること			
他者への説明方法に関するニーズ			
1. 子どもの状態を自分の両親や配偶者の両親に説明すること			
2. 子どもの状態を、子どもの兄弟姉妹に説明すること			
3. 子どもについて聞いてくる友人や隣人、見知らぬ人にどう対応するか知ること			
4. 子どもの状態を他の子ども（同級生や近所の子ども）に説明すること			
5. 同じような子どものいる家族について書かれた本などを見つけること			

その他：他に相談したいことや情報がありましたら、具体的にお書きください

.....

.....

.....

お時間をいただきありがとうございました。

施設名：

FNS-J活用事例番号： (各施設の通し番号)

事例の個人が特定されないように留意して、ご記入ください

1. 相談対応者職種： _____
2. 担当業務 (具体的に)： _____
3. 相談者 (該当に○)： 母・父・祖母・祖父・兄弟姉妹・その他 ()
4. 相談者背景 (分かる範囲で記載してください。ニーズとの関連があるためお聞きしています)：
 - ①家族構成： _____
 - ②職業： _____
5. 年齢：相談者 () 歳 施設利用児 () 歳
6. 施設利用児：
 - ①施設利用頻度： _____
 - ②施設利用目的： _____
 - ③障害種類 (手帳の種類と程度)： _____
 - ④主疾病名： _____
7. FNS-Jを活用したタイミング (今後、どのような場面でどのように活用できるのかを具体的にイメージできるように、わかりやすく記載してください)

<例>

- ・初めて施設を利用される際、子どもの情報や家族の情報を聞きとると同時に活用した
- ・不定期に施設を利用している方が久しぶりに来られ、支援の見直しのために活用した
- ・継続的に通園されている方に対して、途中の支援評価のために活用した
- ・近々、生活の変化 (就学、ショートステイの初めての利用、新たな医療的ケアの導入、要介護の祖母との同居、兄弟の進学、父親の単身赴任など) があり、支援の見直しのために活用した
- ・家族の不安が強く、訴え (明確でない) が多いので、ニーズを整理するために活用した
- ・他施設で紹介する際、家族の了解を得た上で他施設と共有する情報としてニーズを収集した

8. FNS-Jの活用方法：

活用範囲 (どちらかに○)

- ① 部分的に活用 (活用部分： _____)
- ② 全体を活用

相談における活用時期 (すべての該当番号に○)

- ① 相談前に記載してもらおう
- ② 相談途中で記載してもらおう
- ③ 相談後に記載してもらおう
- ④ 特に記載してもらわないで、一緒にみながらニーズを聞き出す

9. 相談の内容 (FNS-Jに関係なく、そもそもの相談内容)

10. 相談の中でFNS-Jを具体的にどのように活用されましたか？

11. FNS-Jを活用して良かった点は何ですか？

12. FNS-Jの活用しにくかった点、このように換えた方がよいという提案などありますか？

13. FNS-Jを活用する際、特に気をつけた点は何ですか？

14. 相談後、ご家族の様子はどうでしたか？何か変化はありましたか？

ご報告ありがとうございます

主な試行事例の結果を以下に示した。相談対応者、相談状況、子どもや相談者の背景、施設（相談場所）の利用状況、FNS-J 活用理由、FNS-J 活用結果をまとめた。また、相談対応者や研究者らの事例検討からまとめたアドバイスも示した。FNS-J スコアはあくまで参考値として掲載している。

初回面談時での活用、ニーズ整理のための活用、支援評価のための活用、支援の見直しのための活用の4つにわけて順にしめしている。

★ 初回面談の際に活用した例 ★

ケース 1（PSW：初回面談時）

相談者：母（35 歳、児・父母・兄の 4 人家族）

児：6 歳、女、精神発達遅滞・自閉症、療育手帳 A

施設利用状況：初診。診断、子どもの発達特性について知りたい、どう関わっていけばよいか、小学校入学にあたって先生方に配慮してもらおう点について説明できる資料が欲しいという希望があり来所。

FNS-J 活用理由：初めて施設を利用される際、子どもの情報や家族の情報を聞きとると同時に活用（全体活用・相談前に記載）。

FNS-J 活用結果：初診で必要な聞き取り（成育歴、日常生活の様子、発達特性など）が中心になり、FNS-J まで踏み込むことは難しかった。診療録にはさみ、今後、関係性を構築する中で活用していく。

アドバイス：初診時、聞きとり内容が多いため、FNS-J に限定した話にはなりにくい。その場合、「特にこの中で、今、相談したいところはどこですか？」と聞いて、一部を対応するように工夫をし、他の部分については、今後の支援につなげる旨を伝えようにする。

ケース 2（保健師：初回訪問時）

相談者：母（母 34 歳、児・母の 2 人家族）

児：2 歳、男、滑脳症、身体障害者手帳 1 級、療育手帳 A

施設利用状況：ショートステイ施設、訓練施設、医療機関についての相談のため面談希望。

FNS-J 活用理由：転居で当保健所管内に来られ、家族のニーズを把握するために活用（全体活用・相談後に記載）。

FNS-J 活用結果：全般的なニーズを知ることで今後の具体的な支援の方針がたった。

アドバイス：長期的な支援を行っていく家族に対する初回面談では、FNS-J の活用でニーズを網羅して把握できる。初対面であるため、家族と十分に話をしたあと FNS-J を用い、事務的な印象を与えないように心がける。

ケース 3 (PSW：初回面談時)

相談者：父母（父 46 歳 母 42 歳、兄・父母・兄の 4 人家族）

児：4 歳、女、適応障害、手帳保有なし

施設利用状況：初診。兄に障害があり本児の行動が兄に似ているところがあり、診断目的で来所。

FNS-J 活用理由：初めて施設を利用される際、子どもの情報や家族の情報を聞きとると同時に活用（部分活用・相談前に記載）。

FNS-J 活用結果：家族がどのような点に関心があり、知りたいと考えているかということがわかるので、保護者への聞き取りの際に参考にした。時間に制約があったため、FNS-J 回答への対応はできなかった。

アドバイス：ニーズ内容を事前に知ること、初診時の聞き取りがスムーズに行うことができる。

ケース 4 (医師：初回面談時)

相談者：父母（母 36 歳、兄・父母の 3 人家族）

児：4 歳、男、特定不能の広汎性発達障害、手帳保有なし

施設利用状況：初診。子どもの家と外の様子が異なり、子どもの問題より母に問題があるのでは指摘され、どのように対応したらよいかの相談も含め、診断目的で来所。

FNS-J 活用理由：初めて施設を利用される際、子どもの情報や家族の情報を聞きとると同時に活用（全体活用・相談前に記載）。

FNS-J 活用結果：母の不安が強く、訴えが多岐にわたっていたので、FNS-J を活用しながら、全般的な訴えを聞き取ることができた。幅広く訴えをきき、相談対応することで、家族から不安が軽減できたとの発言があった。

アドバイス：多訴の方の場合、多項目にわたる FNS-J を活用することで、全般的なニーズを整理しながら引き出すことができ、家族も自身の気持ちの整理が付きやすい。

ケース 5 (相談員：初回面談時)

相談者：母 (30 歳、主婦、児・父母の 3 人家族)

児：2 歳、男、身体障害者手帳 1 種 1 級、心臓機能障害

施設利用状況：初回。療育センター利用希望のため来所。

FNS-J 活用理由：初めて施設を利用される際、子どもの情報や家族の情報を聞きとると同時に活用 (全体活用・特に記載してもらわないで一緒にみながらニーズを聞き出す)。

FNS-J 活用結果：最初の聞き取りで、聞くことができなかったことを確認するために活用できた。療育センターの利用というニーズ以外に、今気になっている点などを明らかにできた。母は、気になっていたことが再確認できたと発言されていた。

FNS-J 参考スコア：56 点

アドバイス：初回面談の際には、様々なことを聞き取っていく。しかし、漏れる場合がある。相談途中で FNS-J を活用し、チェックするようにニーズを確かめていくことで、初回面談時に子どもや家族の情報をより多く得ることができ、今後のよりよい支援につなげることができる。

★不安が強い、訴えが明確でない、訴えが多いなどニーズを整理するために活用した例★

ケース6 (医師：外来診療時)

相談者：母（38歳、保育士、児・父母・兄の4人家族）

児：7歳、男、注意欠陥／多動性障害、精神障害者福祉手帳

施設利用状況：2ヵ月に1回の利用（ST）。リハビリ継続希望・定期診察のため受診。

FNS-J活用理由：2回目の診察、多岐にわたる相談内容を整理するために活用（全体活用・相談途中で記載）。

FNS-J活用結果：母自身が回答しながら自分の状況を確認している様子で、非常に落ち着いていた。就学し、環境が変わったことで、FNS-Jの「他者への説明方法に関するニーズ」「情報に関するニーズ」についての相談希望があった。FNS-Jの他の項目でも相談したいと回答している部分があり、診察後、ケースワーカーが対応した。

FNS-J参考スコア：89点

アドバイス：継続的に関わっている児で環境変化によるニーズの変化に対応するために活用できる。限られた時間内の診察である場合、FNS-Jの部分活用も可能であると考えられる。

ケース7 (相談員：グループセラピー時)

相談者：母（34歳、自営業、児・父母・弟・妹の5人家族）

児：12歳、女、診断名なし、手帳保有なし

施設利用状況：3ヵ月に1回の利用（グループセラピー）。いじめ、進路についての相談希望がありセラピー後に面談。

FNS-J活用理由：継続的な利用を検討している様子であったため、支援評価のために活用（全体活用・相談前に記載）。

FNS-J活用結果：母のニーズを再確認でき、共有しなおすことができた。

FNS-J参考スコア：63点

アドバイス：家族ニーズの整理が必要でFNS-Jを活用したいが、家族との関係性が十分構築されていない時期では、FNS-Jを活用する理由を十分に説明し、納得いただいてから活用することで、今後の家族との関係性の発展につながると考えられる。

ケース 8 (医師：外来診察時)

相談者：母 (43 歳、主婦、兄・父方祖父母・父母・兄・弟の 7 人家族)

兄：10 歳、男、自閉症障害、療育手帳 B2

施設利用状況：2-3 ヶ月に 1 回の利用 (診察、OT、発達検査)。発達検査説明及び OT 経過説明を受けるため受診。

FNS-J 活用理由：一旦フォロー終了予定のため、ニーズを整理し今後に向けた相談にのるために活用 (全体活用・相談後に一緒に説明しながら記載)。

FNS-J 活用結果：兄も同様の障害があり、十分に様々なことを知っている母であるが、情報については、常に新しいものを入手したいと考えていることが改めてわかった。FNS-J の一項目ごとに読みながら進めることで相談者も質問しやすく、十分に対応することができた。フォロー終了時に使用することで見通しをもった対応と、今後、必要時に相談対応可能な施設 (支援センター等) の紹介につながった。

FNS-J 参考スコア：51 点

アドバイス：一項目ごとに読みながら進めることでニーズをしっかりと聞くことができ、十分な対応が可能となるが、反面、時間を要する。予め、予約をその日の最終診療時間に設定するというような工夫が必要である。また、相談者にも時間を要することを伝え、理解を得たうえで FNS-J を活用することが必要である。

ケース 9 (相談員：面談時)

相談者：母 (38 歳、主婦、兄・父母・妹の 4 人家族)

兄：10 歳、男、広汎性発達障害、療育手帳 B1

施設利用状況：4 年ぶりの利用 (療育センター)。改めて療育が必要ではないかという家族からの相談があり面談を設定。

FNS-J 活用理由：不定期に施設を利用している方が久しぶりに来られ、支援の見直しのために活用 (全体活用・相談後に記載)。

FNS-J 活用結果：療育センター利用の相談以外に、なぜ、療育が必要と考えたかについて聞くために活用できた。母自身がニーズを確認でき、療育を必要と考えた気持ちが整理できた。

FNS-J 参考スコア：80 点

アドバイス：家族の不安や訴えがあるものの、その内容が不明瞭でご自身も整理しかねている場合、FNS-J を活用することで家族にとっても自分の気持ちや考えを整理する機会を得ることになる。

ケース 10（医師：定期診察時）

相談者：母（母 39 歳、児・父母・兄の 4 人家族）

児：5 歳、男、ソトス症候群

施設利用状況：週 1 回の外来リハビリの利用（ST,OT）。親子間のコミュニケーションがうまくとれないということが主訴。

FNS-J 活用理由：他施設利用しながらさらに訓練をしたいということで当施設でも ST,OT を始めたが、幼稚園になじめない、返事をしないなど不適應障害が目立ってきたため、療育全体を見直す目的で活用（全体活用・相談途中で記載）。

FNS-J 活用結果：多くの相談需要があることが改めて分かった。子どもの状況を見極め、親の願いを聞きながら、子どもと家族に現在必要な療育を見直していった。

FNS-J 参考スコア：91 点

アドバイス：親が多くを一度に望むとき、相談したい項目が多くなるが、何を優先すべきか等を整理して相談対応をする必要がある。

ケース 11（保健師：面談時）

相談者：母（母 28 歳、児・父母・姉の 4 人家族）

児：1 歳、女、ダウン症候群（心疾患）、手帳保有なし

施設利用状況：週 1 回の利用（リハビリ）。通園やリハビリの進路の方向性についての相談があり面談を設定。

FNS-J 活用理由：母の不安が強く、訴え（明確でない）が多いので、ニーズを整理するために活用（部分活用・相談途中で記載）。

FNS-J 活用結果：全体的に課題はどこにあるかの見極めにつながった。

アドバイス：低年齢であり、まだ、該当しないニーズであっても、ケースによっては前向きに、将来的なことを考えるきっかけとなる場合がある。

ケース 12 (医師：定期時診察時)

相談者：母 (母 27 歳、主婦、児・母方祖父母・父母・姉の 6 人家族)

児：2 歳、男、先天性胆道閉鎖、脳出血後遺症 (四肢麻痺)、
身体障害者手帳 1 級、療育手帳 A

施設利用状況：月 6-7 回の利用 (リハビリと診察)。利用している機関の整理を相談したいという主訴。

FNS-J 活用理由：多機関に受診や訓練を受けに行かなければならず、それらの調整が家族にとって負担になったため、問題の整理のために活用 (全体活用・相談途中に記載)。

FNS-J 活用結果：母の心配事の整理ができたが、実際の多機関利用の整理までには至らなかった。

FNS-J 参考スコア：87 点

アドバイス：家族にとって納得できる解決が難しいこと、調整や相談では解決できないこともあることを理解してもらいながら、相談対応してくことも重要である。

★ 継続的に施設を利用されていて、途中の支援評価のために活用した例 ★

ケース 13 (相談員：面談時)

相談者：母 (40 歳、主婦、児・父母の 3 人家族)

児：4 歳、男、広汎性発達障害、療育手帳 B2

施設利用状況：月 2 回の利用 (療育センター)。療育センター以外のサービスも利用したいという希望があり面談を設定。

FNS-J 活用理由：定期的に療育を受けていたが、別のニーズが生まれ、そのニーズを聞き、併せて他のニーズも聞くために活用 (全体活用・相談後に記載)。

FNS-J 活用結果：療育センター以外の別サービスの利用というはっきりとしたニーズがあったが、他のニーズも確認することができた。緊急に対応すべきニーズではなかったが、社会的自立など、家族は将来に向けた不安を持っていることがわかった。今後、それらの不安も踏まえて対応していくことができる。

FNS-J 参考スコア：59 点

アドバイス：相談希望の内容を持っていても FNS-J の回答により他の相談に展開し、今後の支援につなげることができる。

ケース 14 (医師：外来診察時)

相談者：母 (40 歳、主婦、児・父母・兄の 4 人家族)

児：8 歳、女、脳性まひ、身体障害者手帳 1 級、療育手帳 A

施設利用状況：月 2 回の利用 (PT)。学校での不適合、コミュニケーションの工夫について相談のため受診 (全体活用・相談途中で記載)。

FNS-J 活用理由：肢体不自由児通園施設卒園児で、卒業後 1 年半が経過し、ニーズの変化があると考えられたため活用。

FNS-J 活用結果：「相談したい」と書かれた項目につき、できる範囲で対応した。通常の診察場面では、理解良好な母である印象であったが、情報を得たいと強く思っらっしゃることが分かった。また、経済面に関するニーズは直接聞きにくい内容であるが、FNS-J への回答をきっかけに対応に展開することができた。

FNS-J 参考スコア：65 点

アドバイス：相談内容が多い方の場合、途中で FNS-J を回答してもらうことで、ニーズの整理ができる。また、相談者も回答することに抵抗感なく FNS-J をスムーズに導入できる。診療時間に制限がある場合、「相談したい」と回答された項目すべてに対応できないことがあるので、優先順位を決めて相談に応じたり、より適当な職種に相談対応を任したりして対応することが重要である。

ケース 15（医師：特別児童手当診断書作成時）

相談者：母（29 歳、主婦、兄・父母・弟・妹の 5 人家族）

児：3 歳、男、自閉症、療育手帳 B2

施設利用状況：週 5 日単独通園、母は月 2 回の利用。特別児童手当診断書に必要な診察のため受診。

FNS-J 活用理由：継続的に通園されている方に対して、途中の支援評価のために活用。また、最近、第 3 子の出産により生活の変化があり、支援の見直しのために活用（全体活用・相談後に一緒に説明しながら記載）。

FNS-J 活用結果：母は外国人で日本語をよく理解しているものの、会話では細かなところまで理解してもらっているかを確認することは難しかった。しかし、FNS-J を活用することで、やりとりがより正確になった。今後の通園の中で把握したニーズに対応していく。

FNS-J 参考スコア：92 点

アドバイス：通園児の家族に対して、途中の支援評価のために活用することは、今後の療育内容に活かすことができ、また、家族との信頼関係を深めることができるという点で有益である。

ケース 16（相談員：面談時）

相談者：母（32 歳、主婦、兄・父母・弟の 4 人家族）

児：9 歳、男、診断名なし、手帳保有なし

施設利用状況：1-2 ヶ月に 1 回利用（相談）。衝動的に行動してしまう。・コミュニケーションが上手くとれないことを相談するために来所。

FNS-J 活用理由：継続的に相談支援を利用されている方に対して、途中の支援評価のために活用（全体活用、相談前に記載）。

FNS-J 活用結果：これまでの相談場面では、時間が限られているので、具体的な家族のニーズが詳しく聞けないが、FNS-J 活用により効率良く家族のニーズにそった相談ができた。

FNS-J 参考スコア：93 点

アドバイス：FNS-J の項目では、「子どもにあう療育施設や幼稚園（保育園）を見つけること」などのように就学前の子どもを念頭においた設問文となっている。FNS-J が中学校までの子どもの家族を対象に信頼性・妥当性を確認できているため、支援の現場で就学後の子どもの家族に活用する場合は、より理解を促すために追加が必要である。

ケース 17 (相談員：プレイセラピー時)

相談者：母 (47 歳、主婦、児・父母の 3 人家族)

児：10 歳、男、プラダーウィリー症候群、療育手帳 B1

施設利用状況：月 1 回の利用 (プレイセラピー)。1 対 1 の遊びの中で、自分の気持ちを調整していくためにプレイセラピーを利用。

FNS-J 活用理由：継続的にプレイセラピーによる支援を受けている方に対して、途中の支援評価のために活用 (全体活用・相談途中で記載)。

FNS-J 活用結果：プレイセラピー後の母との面談の際、ニーズを再確認でき、共有しなおすことができた。

FNS-J 参考スコア：88 点

アドバイス：継続的に支援を行っていく場合は、家族の障害受容程度の把握が重要になってくる。FNS-J への回答の仕方でも障害受容の状況を推測することができる。

ケース 18 (相談員：モニタリング時)

相談者：母 (34 歳、主婦、児・祖父母・父母の 5 人家族)

児：7 歳、男、広汎性発達障害、療育手帳 B2

施設利用状況：月 2 回の利用 (療育センター)。モニタリングのため面接を設定。

FNS-J 活用理由：定期的に療育センターを利用している方でモニタリングのために活用 (全体活用・特に記載してもらわないで一緒にみながらニーズを聞き出す)。

FNS-J 活用結果：今の気になっている点、考えていることなどを聞くために活用できた。

FNS-J 項目に沿って、積極的に話をしていただけ、今の保護者の状況が明確になった。

FNS-J 参考スコア：72 点

アドバイス：やや理解の乏しい家族に対しては、記入してもらおうというよりも、質問項目をわかりやすく説明しながら、こちらがニーズを確認するときのチェック表のような使い方が適している。

ケース 19 (保健師：定期訪問時)

相談者：母 (母 37 歳、児・父母・兄の 4 人家族)

児：4 歳、男、點頭てんかん、療育手帳 A、身体障害者手帳 1 級

施設利用状況：2 ヶ月に 1 回の訪問。今後の日常生活への不安に関する相談希望。

FNS-J 活用理由：成長に従い、ニーズがどのように変化してきているのか把握するために活用 (全体活用・相談後に記載)。

FNS-J 活用結果：家族が普段話さなかった相談したいこと、ニーズを知ることができた。

アドバイス：定期訪問ではあるが数か月に一度という頻繁ではない訪問支援では、家族が不信に思ったり、不快感を抱いたりしないように、FNS-J 活用の主旨を十分に伝え、理解してもらうことが重要である。

ケース 20 (相談員：面談時)

相談者：母 (35 歳、主婦、児・父母・兄の 4 人家族)

児：6 歳、女、診断名なし、手帳保有なし

施設利用状況：月 2 回の利用 (療育センター)。療育センター以外のサービスも利用したいという希望があり面談を設定。

FNS-J 活用理由：定期的に療育を受けていたが、別のニーズが生まれ、そのニーズを聞き、併せて他のニーズも聞くために活用 (全体活用・相談後に記載)。

FNS-J 活用結果：今の気になっている点、考えていることなどを聞くことができ、子どもや家族の全体的な把握をすることができた。

FNS-J 参考スコア：57 点

アドバイス：診断名もなく、手帳も持っていない子どもであったが、子どもの発達状況をよく理解されている家族であったため、より支援を深めるために FNS-J を活用できた。家族は通常、子どもに関連するニーズを聞かれることになれており、家族自身のニーズを聞かれることには慣れていない。例えば、職に就くための相談や支援などは、子どものことだと捉えられがちで、説明を追加する場合もある。

ケース 21 (相談員：モニタリング時)

相談者：母 (43 歳、主婦、児・祖父母・父母の 5 人家族)

児：7 歳、男、診断名なし、手帳保有なし

施設利用状況：月 2 回の利用 (療育センター)。モニタリングのため面談を設定。

FNS-J 活用理由：定期的に療育センターを利用している方でモニタリングのために活用 (全体活用・相談途中で記載)。

FNS-J 活用結果：今の気になっている点、考えていることなどを聞くことができた。自身も、今の状況やニーズを明確にできた。その点を確認し合えた。

FNS-J 参考スコア：46 点

アドバイス：手帳や診断名が無い利用児の場合は、家族が子どものことをどの程度理解しているかを念頭において面接することが重要である。家族にとっては、子どもの現状認識やニーズの確認ができる機会となる。

ケース 22 (相談員：モニタリング時)

相談者：母 (45 歳、自営業、児・父母・2 人の姉の 5 人家族)

児：6 歳、男、自閉症、療育手帳 B1

施設利用状況：月 2 回の利用 (療育センター)。モニタリングのため面談を設定。

FNS-J 活用理由：定期的に療育センターを利用される方でモニタリングのために活用 (全体活用・相談途中で記載)。

FNS-J 活用結果：今の気になっている点、考えていることなどを聞くことができた。項目にそって、母自らが積極的に話し、その中で、自身がニーズを整理されている様子であった。

FNS-J 参考スコア：54 点

アドバイス：家族によっては、FNS-J の項目について追加説明をしなくとも、自らが考えていくケースもある。どのように FNS-J を活用するかは、家族の状況を見ながら適宜判断していくことが重要である。